

共通テスト形式になってから2回目のテストです。センター試験時代と大きく変化したところもあり、以前のような知識詰め込み一辺倒の勉強だけでは対応できなくなっています。今回出題された問題の中から、「共通テストらしい」問題を一部ピックアップして解説していき、勉強の仕方アドバイスをします。

### 第3問

#### 問3 14

・撰銭(令)に関する史料読み取り問題

2つの史料を読み取り、正しい選択肢の組合せを選ぶ問題ですが、少しやっかいな問題となっております。史料を読み比べた時、「永楽通宝などを選んで、私鑄銭を排除しなさい」と読み取れそうですね。そうすると、「永楽通宝の需要が高い」と解釈してしまいそうですが、実は違います。

#### 撰銭令の背景

日明貿易(勘合貿易)により、永楽通宝などの明銭が流入。

↓

貨幣需要の増大により、私鑄銭も流通。

↓

悪銭をきれい(悪銭の受け取りを拒否)、良質の銭(精銭)を選ぶ撰銭が横行。

↓

円滑な流通が阻害された。

#### 撰銭の問題点

- ①精銭の需要は高いので、精銭が不足する(精銭を貯めておく→世の中に流通しにくい)。
- ②結果的に悪銭流通が広まる。⇒地域性が高まる(精銭使用を嫌がる)。

補足:永楽通宝は関東地方で好まれ、洪武通宝は九州で好まれていたようです。

#### 幕府・戦国大名の対策

それぞれ精銭と悪銭の混入比率を決めたり、一定の悪銭の流通を禁止するかわりにそれ以外の銭の流通を強制した撰銭令を出します。しかし、幕府・戦国大名が各々出しているの、比率は場所によって異なり、結局悪銭の流通を広める結果となってしまいました。

#### 史料内容の読解

2つの史料の内容ですが、法令を「誰が」出しているのかが重要になります。幕府や戦国大名が「永楽通宝など精銭の使用を求める」ということは、実際には軽視されてあまり使用されていなかったということが読み取れます。

補足:当時の人たちは、明銭はあまり見慣れない貨幣というだけの理由で使うことを嫌っていたそうです。

撰銭令に関する知識と、2つの史料の内容を照らし合わせてみますと、「市中での永楽通宝の需要が低くなっている」と読み解くことができます。

#### POINT1

共通テストの特徴として、普段の勉強で知識をインプットしそれに基づいて文章読解をしていくということが言えます。一問一答だけの勉強ではなくその出来事や制度ができた時代の背景、因果関係などを説明できるぐらい落とし込む必要があります。そして何よりも常に史料を読むクセをつけた方が良いです。史料に書いてあることをしっかりと読んでみると新たな発見があります。

第3問

問5 15

・中世における経済の動きの特徴の理解を問う問題

中世の経済構造を図式化され、財貨の動きの理解を問う問題です。今までにない新しい形式の問題となりました。ですが、冷静に追っていただければそこまで苦労せずに正答を選べるのではないかと思います。

いつ頃日本は貨幣経済になったのか

日本はいつ頃からお金を使って物を買うようになったのか。

古代：富本銭→皇朝十二銭(まだ物々交換が主流だが、京やその周辺で限定的に使用)

中世：宋銭・(元銭)・明銭(中国との貿易が本格的になると銅銭が流入する)

このことから中世から少しずつ貨幣経済のシステムが浸透してきたと言えます。

納税方法の変化

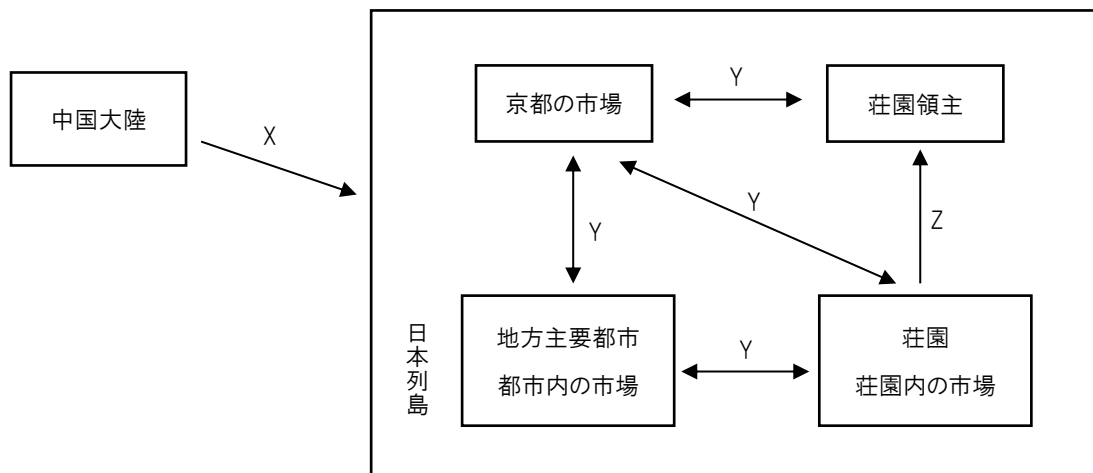
宋銭が流入すると…(図の X)

- ①定期市が行われる。
- ②遠隔地の取引が行われる(図の Y)。→為替の使用
- ③売買の手段は、現物から貨幣が使用される。

このように少しずつ貨幣の使用が必要になると、荘園の一部では年貢の代銭納が行われるようになりました(図の Z)。これは荘園領主が生活等をしていくのに貨幣が必要となってきたからです。

POINT2

日本史は出来事を追っていく通史の勉強が中心となると思いますが、その出来事が起こる背景となる経済や土地制度に関する内容も理解しなければなりません。ただ出来事の経緯を覚えるだけでなく、なぜその出来事が起こってしまうのかを常に考える必要があります。特に経済システムの内容は、近現代以降さらに理解が求められます。常に「なぜ」を問いながら勉強しましょう。



## 第5問

### 問4 25

・明治時代の時代考証の正誤問題

高校生が劇をするために「牧野りん」という人物の生涯設定の内容を生徒たちが時代考証しつつ意見を述べている場面です。いわゆる正誤問題ですが、普通の正誤判断ではなく設定にある年代をもとに判断していきます。

#### 必要な知識

1874年 屯田兵制度開始(士族授産の意味合いがある)

自由民権運動(士族民権→豪農民権→貧農民権)

1882年 伊藤博文が、憲法調査のためドイツへ出発

1898年 憲政党結党(第三次伊藤博文内閣、自由党と進歩党が合同)

#### 設定の確認

・牧野りん(1860年～1910年)

・父親は屯田兵(1874年)として札幌近郊に移住。しかし、りんが16歳の時(1876年)に亡くなる。

・りんが20歳(1880年)の時、自由民権運動を通じて知り合った憲政党(1898年)の男性と結婚。

・21歳(1881年)から8年間(～1889年)、夫とドイツで暮らす。

#### 生徒の発言内容の確認

・タク: 屯田兵に応募できるのが平民だけと指摘。→平民だけと限定するのは間違い

・ユキ: 憲政党結成の時期が違うので、設定変更を要求。→憲政党結成は1898年なので正しい

・カイ: りんがドイツ滞在中、明治政府が憲法調査のためドイツに行っている(1882年)ことを反映させた方がいいと案を出す。

→年代の設定に無理がないので正しい

以上のことから、タクの発言だけが間違っていると判断できます。

#### POINT3

近現代史以降は、センター試験時代からやや細かく問われることが多かったです。近現代史以前(近世まで)をなるべく早めに勉強を進めて、近現代史に時間をかけられるようにしましょう。ただ、残念ながら多くの高校では近現代史に授業時間をあまり費やせていないように思えます。なので、学校の授業を待つのではなく、積極的に自分から進めていく必要があります。

## 第 6 問

### 問 6 31

#### ・沖縄返還に関する問題

今回第 6 問の全体のテーマとして「旅」が取り上げられています。私の勝手な想像ですが、2022 年は少しずつ with コロナの生活が始まり、行動規制も緩んできて、政府による支援もありこのテーマが選ばれたのではないかと思います。また、2022 年は沖縄返還 50 周年ということもあって、さらに「沖縄」が取り上げられたのだと思います。

問題は、沖縄国際海洋博覧会に関する新聞を調べ、作成した見出し一覧の内容から読み取れることの正誤を判断させるものです。

#### 沖縄返還までの歴史

1945 年 沖縄がアメリカの施政権下に入る

1951 年 サンフランシスコ講和条約において、奄美・小笠原・沖縄の各諸島はアメリカの施政権下に残されることが決定

1968 年 早期本土復帰を掲げて屋良朝苗が当選

1969 年 佐藤・ニクソン会談→核抜き・本土並み・72 年返還

1971 年 沖縄返還協定の調印

1972 年 5 月 15 日、本土復帰

#### 見出し一覧で注目すべきところ

- ・1975 年に「沖縄海洋博」開催決定を 1971 年 3 月に報道
- ・観光客増加により景気の起爆剤になることを期待
- ・経済的な利益は本土が吸い上げている
- ・終了後、沖縄経済は悪化、基地問題も相まって不信感増大

海洋博の開催検討はアメリカ施政権下の時から行われていたことがわかり、開幕後は本土に対する沖縄の不信感が増したということがわかります。

#### POINT4

日本史の勉強で忘れてはならないことがあります。それは年代暗記です。第 5 問の問題もそうですが、最後の判断基準としてやはり年代暗記は必要になります。今回の問題も沖縄返還が何年にあったかを覚えていればそんなに苦労する問題ではありません。また、最新時事から歴史的興味を持つことも重要です。今回問題のテーマにはありませんでしたが、2022 年は鉄道開業 150 周年の年でもありました。2023 年は果たしてどんな出来事が起こるのか…。